

11月7日(金)の学校公開日に、全校一斉道徳を行いました。^{きど や あいらく}喜怒家哀楽さん(磯村先生)が「本当の笑いとは」について、落語を用いた道徳を実践してくださいました。落語の歴史や説明を聞いたり、生の落語を目の前で鑑賞したりしたことで、江戸時代から続く日本の伝統芸能について理解し、「本当の笑い」について考え直すきっかけになりました。

内容項目：我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度(C-17)

教材名：落語

①落語とは ②「動物園」 ③落語体験 ④「本当の笑い」とは

「動物園」のあらすじ

仕事が長続きせず、朝は起きられず、力仕事も頭を使う仕事も苦手な男がいる。親戚のおじさんから、動物園で死んだ虎の代わりに着ぐるみを着て檻に入るという仕事を紹介される。男は上手に虎を演じようとするが、化けの皮が剥がれそうになる危機に何度も直面する。

虎の生活に慣れ始めたところで、場内に虎とライオンの一騎打ちが始まるとアナウンスが入る。虎の檻にライオンが入れられる「猛獣ショー」が始まり、絶体絶命のピンチを迎える…。

喜怒家哀楽さんからの言葉

「笑う」ということはとても大切です。「笑う」という行為ができるのは人間だけです。人をバカにすることや、人の悪口を言うことは「本当の笑い」ではありません。人が聞いて嫌な思いをする笑いも「本当の笑い」ではありません。

SNSを使ってやり取りをする人も多いかもしれませんが、SNSは相手の表情が見えづらいです。直接相手の顔を見て話せば、「嬉しい」や「傷ついた」など相手の表情で分かります。本当の気持ちを伝えたい時は、目と目を見つめて話をしてみてください。



～生徒の振り返り・感想～

- ・落語は話すのが上手ければできると思っていたが、演技力や表現力が必要不可欠だということに気がつけた。
- ・様々な登場人物が出てくるが、場面の移り変わりにメリハリがあり、複雑な情報を整理しながら見られた。飽きないようにしていたのがすごいと思った。
- ・また落語を鑑賞する機会があったら、今日教えていただいた知識をフル活用して、楽しもうと思った。
- ・昔からある落語を受け継いで、人々を笑わせてくれるのはすごいと思った。
- ・「笑う」ということは人間しかできないと聞いて、もっと毎日楽しく笑おうと思った。
- ・誰も傷つけない笑いはとても素敵だし、これらも伝統芸能として続いてほしいなと思った。
- ・人のことをバカにする笑いはダメだと分かった。誰が聞いても嫌な気持ちにならない話をするのを心がけようと思った。
- ・哺乳類がたくさんいる中でも、「楽しい」「おもしろい」という感情があるのは人間のみということを知ってとても驚いた。感情というものがあるからこそ、困難があったりするけれど、みんなと笑顔でいられる日々を大切にしたいと感じた。そして、その笑顔を自分が消さないようにし、守って生活していきたいなと感じた。
- ・落語を通して「笑い」についてもう一度考える機会になった。笑いはとても大切で、その笑顔は言葉と同じように花束にもなれば刃物にもなる。だからこそより多くの笑顔が見られる選択をしていきたいと思った。

外国人が感じる日本のすばらしさについて書かれた、「10 Reasons Why Japan is Now the HOTTEST Travel Destination in the World (今、日本が世界で最も熱い旅行先である10の理由)」という1つの記事があります。

第1の理由は「季節問わずに行けること」。第2の理由は「日本文化」。第3の理由は「日本には誰もが楽しめるものがあるということ」。第4の理由は「食文化」。第5の理由は「祭り」。第6の理由は「ショッピング」。第7の理由は「温泉」。第8の理由は「細部への完璧なこだわり」。第9の理由は「安全性」。第10の理由は「どんな予算にも対応できること」。

みなさんの考える日本のすばらしさは何だと思えますか。

また、その日本のすばらしさを、どのように世界の人々に伝えていきますか。